

月刊 しばうら

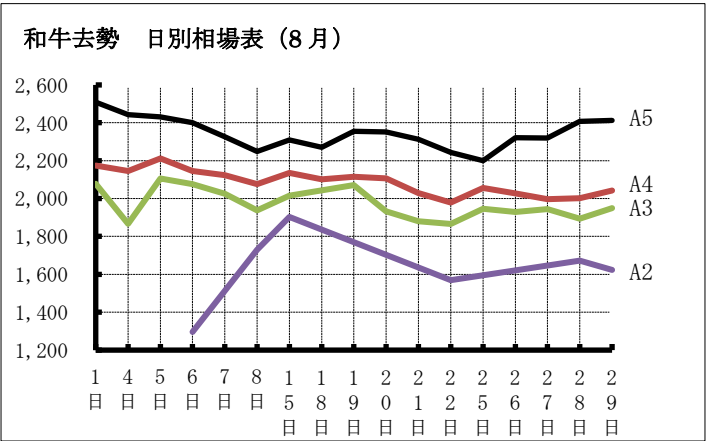
2025 年 9 月号

牛肉営業部

＜8 月の相場動向＞

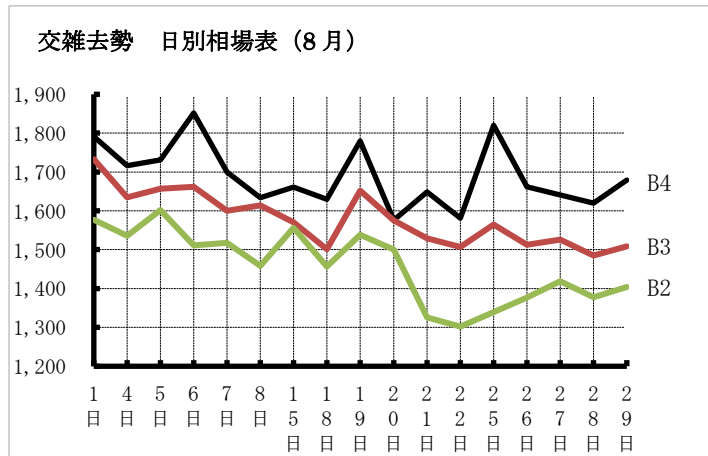
例年、8 月は夏休みの行楽需要により引き合いが活発化するが、今年は東京都心で 10 日連続の猛暑日が記録され、熱中症警戒アラートの多発により日中の外出を控える傾向が強まり、量販店や外食需要も伸び悩んだ。

和牛は輸出向けロースの荷動きが鈍く、2 等級を除いて前月比で大幅に下回った。交雑牛は低価格帯需要や輸入牛肉の高止まりにより前年並みの相場となったが、夏休み向けの手当て買いが 7 月末から 8 月前半に集中し、前月比では大きく下落した。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,354 円	+26 円	101.1%	-124 円	95.0%
A4	2,081 円	+88 円	104.4%	-90 円	95.9%
A3	1,970 円	+143 円	107.8%	-53 円	97.4%
A2	1,737 円	+89 円	105.4%	+1 円	100.1%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,684 円	-23 円	98.7%	-76 円	95.7%
B3	1,576 円	-1 円	99.9%	-47 円	97.1%
B2	1,433 円	+27 円	101.9%	-50 円	96.6%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	—	—	—	—	—
B2	1,140 円	—	—	-94 円	92.4%

＜9 月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、7 月の輸入量は 4 万 6,941 t（前年同月比 4.9%減）で、うちチルドは 1 万 7,109 t（同 9.4%減）。フローズンが 2 万 9,832t（同 2.1%減）となり、米国がバラを中心に前年を大きく上回った反面、トリミングなどが主体の豪州からの輸入量が 22.3%減と大幅に減少した。

農畜産業振興機構によると 8 月の牛肉輸入数量予測は、前年同月比 11.7%減の 4 万 3,200t（チルド 0.5%減・冷凍 17.0%減）で予測している。

冷蔵輸入量は、現地価格の高騰などの影響で主要国のうち米国産が減少すると見込まれており、8 月は前年同月をわずかに下回ると予測されている。同じく、冷凍輸入量は米国産を除き多くの輸入先で減少が見込まれることから、前年同月を大幅に下回る見通しとしている。

こうした動きを踏まえ、9 月の輸入量は前年同月比 0.3%増の 3 万 8,300t（チルド 5.1%減・冷凍 4.1%増）と予測している。

輸入牛肉通関量		7 月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	9,208	9,749	94.4%
	米国	6,604	7,722	85.5%
	その他	1,297	1,404	92.3%
	合計	17,109	18,875	90.6%
フローズン	豪州	13,058	16,809	77.7%
	米国	11,019	6,622	166.4%
	その他	5,755	7,041	82.0%
	合計	29,832	30,472	97.9%

出典：食肉速報

単位：t

＜9 月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による 9 月の出荷予測頭数は、全体で前年同月比 98.5%の 8 万 9,200 頭で、品種別にみると和牛は 4.0%減の 4 万 2,000 頭、交雑種は 8.7%増の 2 万 2,000 頭、乳用種は 5.5%減の 2 万 4,600 頭と予測している。

また、東京食肉市場の 9 月のと畜頭数は 7,440 頭（同 7.9%増）を予定している。

＜9 月の牛枝肉相場見通し＞

物価高騰による節約志向は当面続くと見込まれ、牛肉需要の大幅な回復は難しい状況にある。さらに、最新の予報では昨年同様、厳しい残暑が彼岸頃まで続くと言われており、量販店の昼間来客数の減少も懸念される。

また和牛は、6 月以降、輸出向けロースの引き合いが近年の中でも特に低迷が続いているため、例年以上の動きが見られなければ、相場は軟調に推移する可能性がある。

一方、交雑牛は量販店での和牛の代替需要などにより、底堅い相場が維持される見通しだ。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,250～2,500	B4	1,650～1,750
A4	2,100～2,250	B3	1,550～1,650
A3	1,950～2,100	B2	1,400～1,500
A2	1,700～1,950		
乳牛去勢			
B3	1,250～1,350		
B2	1,150～1,250		

豚肉営業部

7 月の全国と畜頭数は、128 万 1,338 頭（前年同月比 2.3%減）と前年を下回った。また、7 月の豚肉通関数量は 8 万 2,783t（同 4.0%減）と前年を下回り、前月比でも 1.2%減となった。内訳はチルドが 3 万 4,194 t（前年同月比 22.8%増）、フローズンは 4 万 8,589t（同 16.8%減）と 2 桁減となった。

2024-2025 年の需給量と推定期末在庫					
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物 輸入物
7	71,679	86,155	23,227	195,529	73,101 83,782
8	65,651	84,078	22,108	200,290	66,675 79,317
9	68,773	78,666	21,580	201,197	69,219 77,759
10	7,9625	86,742	21,384	201,922	79,699 86,017
11	78,361	78,216	21,389	194,797	78,249 85,341
12	80,661	76,518	22,458	185,736	79,425 85,579
1	79,908	80,505	23,536	190,508	78,746 75,733
2	72,607	71,911	24,121	192,819	71,884 69,600
3	76,052	65,956	24,424	192,115	75,606 66,660
4	77,457	93,904	24,518	197,256	77,266 88,763
5	73,100	90,460	24,091	214,149	73,406 73,567
6	68,598	83,731	24,109	222,274	68,453 75,606
7	69,871	82,687	22,399	219,105	71,374 84,255
比	98%	96%	96%	112%	98% 101%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

7 月 豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	11,539	104.9%	デンマーク	3,021	49.6%
カナダ	19,697	151.2%	スペイン	13,736	73.4%
メキシコ	2,956	77.5%	メキシコ	5,235	74.0%
			アメリカ	6,558	102.5%
			カナダ	4,624	82.2%
合計	34,194	122.8%		48,589	83.2%

単位：t

＜8 月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1 日	54,900	767	734	862
4 日	61,600	753	742	627
5 日	61,800	790	726	852
6 日	59,500	707	655	776
7 日	60,600	681	649	1,028
8 日	61,700	681	650	1,047
平均	60,017/日			865/日

関東では気温が 40℃を超え、観測史上最高を記録した。全国的に厳しい暑さが続いた影響で、肉豚の生育や出荷に支障が生じ、上場頭数は減少傾向となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12 日	59,700	682	599	827
15 日	—	686	627	1,104
18 日	64,600	651	588	978
19 日	63,900	652	604	816
20 日	61,000	639	592	794
21 日	63,400	646	583	896
平均	62,520/日			903/日

お盆明けの補充買いへの期待が高まる一方で、猛暑の影響により野菜などの価格が高騰し、末端消費はさらに低迷した。その結果、相場は 600 円台前半で軟調な展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22 日	60,500	629	595	1,025
25 日	63,400	620	590	868
26 日	66,000	633	601	787
27 日	62,300	610	591	799
28 日	64,000	606	572	868
29 日	61,000	610	580	1,023
平均	62,867/日			895/日

全国のと畜頭数は、引き続き 6 万頭台前半の日が続いた。バーベキューなどのイベント需要が一段落し、学校給食の再開に向けてスソ物の引き合いが強まったものの、相場への影響は見られず、上物と中物の価格差が大きく目立つ展開となった。

＜9 月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和 7 年 9 月の肉豚出荷予測では 128 万 9,000 頭（前年同月比 100.9%）と予測している。当市場の 9 月集荷予定せり頭数は 1 万 7,000 頭、1 日あたりでは約 850 頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると 9 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 6,900t（同 97.8%）、内訳は冷蔵輸入量が 3 万 400t（同 100.4%）、冷凍輸入量は 4 万 6,500t（同 96.1%）と予測。

冷蔵輸入量は、米国産の価格上昇に伴い、価格面で優位性を持つカナダ産の増加が見込まれるほか、高騰する国産豚肉からの需要のシフトも影響し、前年同月をわずかに上回ると予測する。なお、同様に 3 カ月平均でも前年同期をかなりの程度上回ると予測する。

冷凍輸入量は国内における輸入品在庫の積み上がりなどを背景に、当月の輸入量は前年同月を下回ると予測される。加えて、3 カ月平均でも前年同期比で大幅な減少が見込まれる。

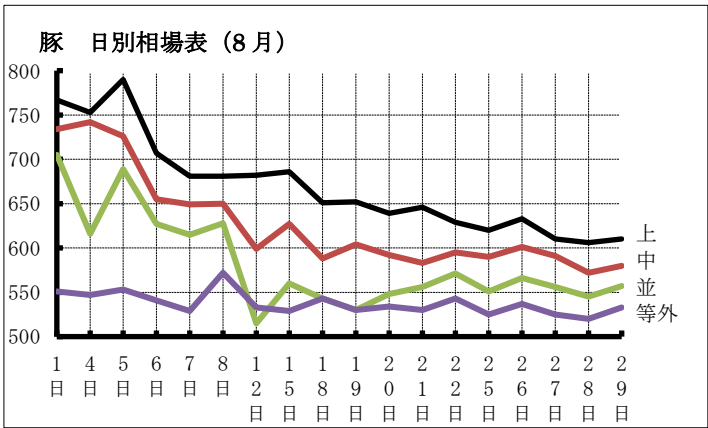
例年 9 月は、学校給食の再開による需要の高まりに加え、2 週連続の祝日に伴う行楽需要への期待も重なり、手当て買いが入ることで相場は一時的に高値となることが予想される。

一方で、米や野菜の価格高騰により消費者の節約志向は根強く、今後は輸入品へのシフトが進む可能性もある。

供給面では、残暑の影響で上旬の出荷頭数はやや少なくなる見込みだが、気温の低下が進むにつれて下旬には順調に増加していくと予測されている。

こうした気温や天候の変化に左右されるものの、出荷頭数の回復が進めば、相場は下旬には落ち着いた展開となる可能性が高い。

以上のことから当市場の上物平均価格は 650 円前後、中物平均価格 620 前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127